

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた	○				
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Food Safety and Quality Management では食品の安全・衛生に関しての概要を学んだ後に、GMP、CODEX、HACCP に関しての詳細を学んだ。特にタイと日本の GMP の違いや特徴、HACCP の原則、利点、HACCP プランの作成方法等を重点的に学んだ。

Food Chemistry I では、食品化学の導入を学んだ後に、食品中の各成分を一授業単位で学んでいった。具体的には、食品中の水分、水分活性、炭水化物、親水コロイド、タンパク質、酵素、褐変反応、ビタミン、ミネラル、脂質、エマルションなどの項目である。すべて一度は茨城大学の授業で学習したことのある内容だったが、いくつか自分で新たに学ぶこともあった。

Food Microbiology では微生物の命名法、分類、成長に影響する因子、発酵、食中毒、食品保藏など教養的な部分を前半に学習し、後半は食中毒を引き起こす主要な要因となる微生物に関してそれぞれ詳しく学んだ。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業のスライドが事前にアップロードされるので、わからない常用の英単語はもちろんだが、特に専門用語を重点的に授業開始までには調べておいた。単語がわかっている状態で授業を受けるのと、わかっていないまま受けるのでは身につけられる知識が全然違うのでそのことは意識して徹底した。

また自分で復習ノートを作るときには、英語の記述力の訓練になるように日本語ではなく英語でまとめるようにした。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

私は食事の際、コンビニや日本にもあるようなチェーン店で済ませるのではなく、積極的に現地の屋台や店で伝統的な食事を食べるように心がけていた。そのおかげで日本に住んでいては考えられないような食品の調理方法や保存方法などを体感することができた。それだけでなく、屋台のようなお店だといつも同じ人が同じ場所で働いているので何度も通うとコミュニケーションをとれるようになり、そういったこともいい勉強になったと思う。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

実際に日本を出ていろいろな国の人と触れ合うことで、外国人をとても身近な存在に感じるようになった。たしかに、国が違えば育った環境や習慣、食事や思想、宗教など様々な違いがある。しかし、今やインターネットで世界中の情報をだれとでも共有できる時代で。若者の価値観や流行、生活スタイルにそれほど大きな差はないのではないかと感じた。しかし、時にはいろいろな人や文化と触れ合うことで、今までの自分の常識の偏りに気づくことができた。

海外暮らしを経験したこと、日本人としての自分の常識のよいと思える部分、偏ってると思う部分を実感した。今後はこの経験を活かして、自分とは異なる意見や考えに対し寛容に接し、そこから多くを吸収する姿勢で生活をしていきたいと思う

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

自分が派遣されていたわずか4か月の期間にもとても多くのイベントがあった。どれも比較的規模の大きなものであり賑わいがあった。それら全てに学生が主体的に加わっていて、非常に素晴らしい感じた。

設備も新しく綺麗で充実していてよかったです。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

時折開催される学校イベントに積極的に参加することをお勧めする。授業の予習、復習やテスト勉強、自分たちでの旅行の計画など時間は十分にはないと思うが、そういったイベントでの学生との交流は私たちにとってとてもいい機会になると思うのでぜひ参加してほしい。

留学の様子がわかる写真（画像 2 枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	キングモンクット工科大学	所属学部等	理学部食品科学学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food microbiology	MIC322	3	毎回復習し、テスト前に2周すれば大丈夫
Food safety and quality management	FST481	3	授業をきいていれば大丈夫
Food chemistry I	FST311	2	毎回復習し、テスト前に2周すればかなりとれる

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
08:30	Food chemistry I						
09:00	↓						
09:30	↓	Food safety and quality management					
10:00	↓	↓					
10:30	↓	↓					
11:00		↓					
12:30		↓					
13:30					Food microbiology		
16:30					↓		
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：現地学生はほとんど、端末に授業資料をダウンロードして受講していた。印刷してもいいが、スライド量が多くて重くなるため、タッチペンで書き込める端末で受講するよい。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）：特になし					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

私は食品化学、HACCP、食品微生物について学んだ。基本的にスライドをインターネット上でダウンロードし、スマートフォンで受講した。

内容は日本で受けた授業より詳しい内容で、初めての内容もあった。

例えば、食中毒菌がもたらす症状だけでなく、その分子的メカニズムなどを、動画をまじえながら学ぶ授業であった。また、授業はすべて英語の学術用語を使うことになるため、日本語ではわかりづらい用語のニュアンスをつかむこともでき、より実用性のある学習をすることができた。

細かい数値や情報など、日本の授業でならったことと異なる点がいくつかあった。

どの科目も全体的に、アメリカや国際の水準に基づいた内容で、留学生を意識した授業であった。

初めての内容を勉強でき、また、日本の授業とすり合わせることでより深く理解することができたため、とても有意義な授業であった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

工夫は、持続的に勉強できるよう、無理なく復習すること。

はじめは授業前にわからない単語を調べて内容を固め、授業後に復習をしていたが、スライド量が多いため毎回行うのはきびしかった。

そのため、授業前は最低限わからない単語を調べていき、タイトルと概要を軽く認識する程度におさえ、復習に力を入れた。

また、資料がおおいため、端末にダウンロードしスライドにメモをうちこんでいた。

スライドごとに要点をまとめ、再度復習しやすいようにした。

試験前はまとめをみながら復習できるため、忘れてもすぐ思い返すことができ、効率よく何周も勉強できた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

当たり前に他人に優しくできるタイの社会性を体感し、日本との違いを考えた。

タイでは、バス内で若い人がお年寄りに席を譲ることはもちろん、お年寄り自身が空席を見つけては、立っている人に声をかけていた。バスや店で初めて会った私たち外国人にも、ためらいなく話しかけてくれた、教えてくれた。義務感や規則による優しさではなく、心の余裕と温かい国民性を感じた。

ストレスが溜まっているのか、日本では見知らぬ人に優しくできるほどの余裕がないと感じたため、心に余裕のある社会を見習いたいと考えた。

また、皆が性的マイノリティに寛容であったことに驚いた。日本ではLGBTに対する偏見や差別が多く、いまだカミングアウトのハードルが高い。しかしタイでは自分の少数的な性をオープンにしており、周囲も相手の価値観を尊重した寛容な対応をしていた。既存のものさしにとらわれない視点をもつべきであると感じた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

仕事の発案や開発をするうえで、何事にも挑戦する姿勢を活かしていきたいと考える。

私は海外に興味がなく英語の苦手意識もあったが、環境をかえて自分の知見を広げたいと思い、留学に挑戦し、挑戦することの可能性と楽しさを感じた。

現地の学生に積極的に話しかけ、一緒に出掛けた等した。そこで日本と違う価値観や国民性に触れたことで、当たり前だと思っていたことが当たり前でないということがたくさんあり、衝撃を受けつつ視野が広がる感覚に楽しさを感じた。また、様々な国に行ってみたいと考えるようになった。

留学で、視野が広がるだけでなく、海外に対する偏見や苦手意識が払拭されて大好きになった。また、留学前には考えられなかつた価値観を得て、人間として成長したように感じる。

留学に挑戦したという経験によって、挑戦が自分の世界を大いに広げる可能性を持つことを実感した。この経験を活かして、将来は興味の有無にかかわらず、まずは何事にも挑戦したいと考える。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

＜大学での行事が盛んであった点。＞

- ・留学生の歓迎会やツアーを大学が行っており、学務も非常にウェルカムな雰囲気を感じた。
- ・ハロウィンパーティーなど季節の行事があり、学生が屋台を出すなどしてにぎやかであった。
- ・タイの伝統の日に、バナナの皮で灯籠を作り、学内の池に流すお祭りが開催された。
- ・月に1週間、マーケットが開かれ、外部から多くの出店が来て並んでいた。価格が安く、欲しいものを選んで買えるお手頃感があった。

＜施設が優れていた点。＞

- ・図書館が大きく、中にカフェがあるため勉強しやすい。サイレントスペースや個室もある。
- ・寝ることができるスペースがあり、メリハリをつけて勉強に集中できる。
- ・図書館以外でも勉強できる場所が多い。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

- ・洗剤やシャンプーなどの日用品はほとんど手に入るので持っていく必要はない
- ・日本の授業とかぶっている部分が多いので、教科書やプリントを持っていくとよい
- ・しっかり勉強すれば単位を落とすことはないと考えられる
- ・日本食も多いが、現地の食にたくさん挑戦したほうがいい
- ・タピオカが安い
- ・大学周りに野犬が多いが、ずっと大人しいため心配しすぎない
- ・日本のお土産を持っていくとよい（お茶漬け、お茶、箸など）
- ・ViaBusというアプリを入れておくとバスの時間と場所がリアルタイムでわかる

留学の様子がわかる写真（画像 2 枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2019年8月11日～12月16日
派遣大学名	キングモンクット工科大学 トンブリ校	所属学部等	Science 学部 Microbiology 学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Chemistry	FST311	2	授業範囲がとても広いので、復習と予習をしっかりと行わないと試験が大変になる。
Food Microbiology	FST322	3	授業をしっかり聞いていれば試験勉強はそれほど大変ではない。
Food Safety and Quality Management	FST481	3	試験内容は考え方を見るような内容だったので、授業をしっかり聞いていれば大丈夫。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	起床	起床		起床	起床		
08:30	Food Chemistry		起床			起床	起床
09:30		Food Safety	観光など	勉強	勉強	観光や勉強	観光や勉強
10:30							
11:00							
12:30	昼食						
13:30	勉強	昼食		Food Microbiology	Food Microbiology		
14:00				lab			
15:00	大学のジムで筋トレ	大学のジムで筋トレ					
16:30							
17:00							
18:00	夕食	夕食		夕食	夕食		
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）：Food Chemistry と Food Safety は授業内容や日程の変更が頻繁にあったため、教授に授業計画について頻繁に確認してスケジュール管理に注意しなければいけなかった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか		○			
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Food Safety の授業内容は食品の衛生管理についてで、主に HACCP と GMP の基礎知識を学んだ。授業ではグループワークで Haccp プランの作成に取り組んだ。試験でも HACCP プランを作成する問題が多く出題されたので、食品衛生管理についての知識はかなり身についた。

Food Chemistry では食品化学、生化学、酵素化学、栄養科学について学んだ。授業内容はとても広く、これら 4 つの授業内容をほぼ全て学んだ。ほとんどの内容は日本すでに学んだ内容だったが、新しく学ぶ内容も多くあったので、さらに理解を深めることができた。

Food Microbiology では食品に関する微生物の形態や微生物の増殖の増殖によって起こる腐敗と食中毒について主に学んだ。特に食中毒に関しては、実際に起きた食中毒を例に挙げて感染経路、原因となった微生物の形態など食品関連の就職を考えている人にとってはとても実践的なことを学ぶことができた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

微生物の名前や食中毒に関する用語など、専門的な単語がとても多かったため、事前に授業資料を確認して単語の意味を調べていた。学習する事の中には日本で学んだことと違う答えや、異なる理論があったので日本から持ってきた授業資料と照らし合わせて復習を行った。

現地の教授はメールを見逃していたり返信が遅かったりするので、授業に関する質問は授業後や空き時間に直接質問していた。

どの授業も範囲がとても広いので試験勉強はできる限り早く始めていたが、試験直前になって時間が足りなくなることがあり、一か月以上前からコツコツ試験勉強をするべきだった。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

タイへ留学し、異なる文化に多く触れることで、今まで当たり前だと思っていた日本の文化のすばらしさや特徴に気付くことができた。現地の学生や他国からの留学生と交流する際も、日本への憧れを話してくれる人や日本人だという理由でとても親切にしてくれる人がたくさんおり、留学以前よりも日本人であるということに誇りを持った。

さらに、現地でパスポート関連のトラブルを経験した際、タイでは頼れる人がとても少なく解決するまで非常に大変だったため、何か困ったことがあった際、誰かが助けてくれるのを待つのではなく、自ら助けを求めて迅速に行動できる人間に成長できた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

私は今回の留学を体験して、世界中で進んでいく食文化の多様化に興味を持ちました。私はタイで様々な食べ物に挑戦しましたが、その中で、タイには日本、中国、イスラム、欧米などの様々な食文化が日本以上に広まっていることに気づき、今後の日本でも同じように様々な国の食文化が広まり、食文化が変容していくと感じました。そして、これから食品業界で活躍し、日本の食文化をより発展させていくためには様々な国の人々の文化や知識を積極的に取り入れていくことが必要不可欠であると感じました。私は将来食品会社に就職したいと考えており、そこで商品企画や開発業務に携わりたいと考えています。その際、今回の留学で身に付けた多様な視点で物事を考える力と、積極的に新しい事を取り入れる挑戦力を発揮し、日本の食文化をより発展させるよう取り組んでいきたいと思います。また、将来海外でも活躍できるように今回の留学で身に付けた英語力をさらに磨き続けて生きたいと思います。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

キングモンクット工科大学は大学の建物や施設がとてもきれいでとても快適でした。食堂では料理をたくさんの種類の中から選ぶことができ、かつとても安いため大学内の食事に困ることはありませんでした。図書館などのクーラーの効いた勉強スペースが沢山あるだけでなく、外にも沢山の勉強スペースがあって自学自習にはとても便利でした。

大学が駅からバスで40分ほど離れた場所にありますが、大学内に郵便局や文房具などを変えるお店があり、大学周辺に飲食店やスーパーも多数あるので不便に感じることはなかったです。駅から離れているおかげで治安もそれなりによく、騒がしさもちょうどよかったです。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

KMUTTの留学生はアパートに住んでいる人が多く、他の留学生と関わることが少ないので留学生の交流会やパーティーには積極的に参加して友達を作ったほうがいいです。

大学から駅と反対側に乗り合いタクシーで5分くらい行った場所にとても大きな市場があってとても楽しいです。また、市場の近くにマックスバリュあり、日本の食べ物が普通に買えて便利です。

授業資料の印刷は、大学内に複数ある印刷所でする学生が多いですが、フードサイエンスの実験棟1階にあるパソコンルームにUSBを持って行って印刷すると安いのでお勧めです。その管理人のおばさんは英語を話せませんがとても面倒見がよくて優しいので仲良くするといいです。

留学の様子がわかる写真（画像 2 枚程度）





海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイランド	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	キングモンクット工科大学	所属学部等	理学部 Food Science 学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Chemistry	FST311	2	テストの範囲がとても多い。
Food Safety And Quality Management	FST481	3	今までの知識でいける。が、先生はもう退職されるので来年はわからない。
Food Microbiology	MIC322	3	めちゃくちゃ覚えることが多い。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:30							
09:30	Food Chemistry						
10:30		Food Safety And Quality Management					
11:00							
12:30							
13:30					Food Microbiology	Food Microbiology	
14:00							
15:30							
16:30							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	<input type="radio"/>				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		<input type="radio"/>			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	<input type="radio"/>				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	<input type="radio"/>				
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった					
・寮や宿舎の住み心地	<input type="radio"/>				
・大学の設備（講義室や実験室等）	<input type="radio"/>				
・現地での食事について	<input type="radio"/>				
・休暇を利用した課外活動への参加					<input type="radio"/>
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	<input type="radio"/>				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	<input type="radio"/>				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	<input type="radio"/>				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか			<input type="radio"/>		
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

茨城大学にて学んだことを再び英語で学びなおした形。しかし、現地で新しく知ったこともあった。また、日本とタイでの生活環境や自然環境の違いから、日本ではあまり深堀しなかった内容を深く学ぶこともあり、その違いが面白く感じた。例えば、Food Safety And Quality Management の授業内で、「日本は島国そのため、川は川上に行けば行くほどきれいになる。日本ではいかに自然を壊さないようにするかということを考えている。しかし、タイは大陸国。川上には中国があり、農業や工業で汚染された水が流れてくる。タイでは汚染からどのように身を守るかを考えなくてはならないのです。」という内容の先生の言葉があった。タイでの衛生学を学べたことはとても良い経験になった。Food Microbiology Lab については、単位は取得しないということで、レポート・試験無しという条件で参加していた。現地の学生との交流を深める狙いがあった。結果、実験をしながらコミュニケーションを密に取れたので、仲を深めることができた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点及び反省点（300字程度）

授業中、電子辞書や携帯を使って、わからない単語があればすぐに調べることを意識した。

わからないことがあればすぐに先生に質問した。また、入院した際は、日本の留学メンバーに授業の音声を録音しておいてもらい、退院後にそれを聴いて遅れを取り戻すよう努力した。日々、授業後は復習していくことを心掛けていたが、だんだんとやらなくなってしまい、試験直前で大変になってしまったことが反省点。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

私が21年間生きてきてこれが「ふつう」だと考えることもなく行ってきた動作や使ってきたもの・仕組みが、外国に来ると「異文化」に代わるということがとても強く感じた。スプーンとフォークを両手でそれぞれ持って食事をしたり、名前の呼び方だったり、数えきれないくらいの「違い」があった。日本では「非常識」と言って、少数派の考え方や個人の独特的な言動を非難することが多い。留学をしていて得たことは、大多数の人の考え方である「常識」を基準に人を非難するのは世界的にみると「非常識」なことなのでは？という疑問。世界の各国で多種多様な文化があるように、日本にも都道府県があってそれぞれの地域の文化がある。地域ごとの「常識」がある。日本の中でも地域によって「常識」なものが、他の地域では「非常識」であることもあり得るに違いないと感じた。これから日本での生活では、「常識」という言葉にとらわれず、いろいろな考え方・見方のできる人間になりたいと強く思った。そして、他人の意見一つ一つを大事にするように心がけようと思った。この心の変化は、人生においてとても大きいものになると感じている。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

異国で暮らすということはなかなか経験できないことだったと思う。留学先で学んだことは前述したとおりほとんどがすでに習っていた内容だったため、得られた知識としては英会話力と専門用語の英単語力であった。世界で働きたいという気持ちはないが、これから日本にいても外国人と触れ合う機会は増えていくと思うので、積極的にかかわっていきたいと思っている。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

- ・施設がきれい
- ・家がきれい
- ・先生が親身になって助けてくれた
- ・現地の子たちが非常に親切
- ・少し移動すれば大都会なので、何不自由のない生活ができた

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

とても良い経験ができる大学です。大学の中には日本食レストランもあり、また周辺にもたくさん日本食を食べられるところがあるので、食に関するストレスは少ないかと思います。最初は現地の子たちはあまり話しかけてこないので、積極的に自分から声をかけに行くとよいです。打ち解けるとともに皆さんフレンドリーなので、すぐ仲良くなれると思います。交通の便も素晴らしいので、いろんなところに行けるのでとても充実した日々が送れます！

留学の様子がわかる写真（画像 2 枚程度）



上：滞在していた家の写真

下：実験で仲良くなったメンバーとの写真